

ひと みなゆうよう よう し およう よう し
人は皆有用の用を知るも、無用の用を知ることなきなり。

【大体の意味内容】^{だいたい いみ ないよう}人々はみな、役に立つ物の用すなわち使い方は知っていても、無用の、役に立つとは思えないようなものの用つまり徳^{はたらき}を知らずにいる。

よく「無駄^{むだ}に大きい」とか「無駄に長い」とか言いますね。でも、そうした中でも、何か感動的な「無駄」があったりする場合もあります。

例えば富士山について考えてみましょう。

富士山の周辺には特に山地や山脈もなく、ほとんどあの山だけが一人あの場所に存在しているような格好です。そこに暮らしてみれば、富士山の「有用な」面も、いろいろと発見されてきますが、日常において特別かわりのない人にとっては、冷めた目で見れば、

「無駄に大きい」「無駄に高い」「無駄に視界を遮^{おさ}る」といった発言や感想が出てきてもおかしくはない存在のはずです。くわしく調べていない人からは、パッと見、「無用の長物」と切り捨てられてって文句は言えないシロモノです。

ところがそうした否定的な声や感想は聞いたことがあります。日本人に限らず、外国人からでもあります。ほぼすべての人々が、富士山を見て感動します。称賛します。なぜなのでしょう。

「何かの役に立つ」という以前に、その姿の美しさ、たたずまいの立派さ、スケールの雄大さ、その他もろもろの要素に

圧倒される からではないでしょうか。

何かの役に立つが立つまいが、とにかく圧倒的

であることに、私たちは逆らいがたい感動を覚えてしまうのだと思います。

高さにおいてすら、単に標高が高いただけなら富士山よりはるかに高い山も地球上にいくらでもあります。だが、だれが見ても、富士山には、ほかとは次元のちがう神々しさを感じてしまします。

「無用なるもの」も徹底して堂々とあれば、いかなる有用なものをも超えた徳を発揮して、見る者の心を揺さぶり、その威儀を正すものなのです。